

令和4年度まちづくり座談会における質問・要望事項と回答

■蚕桑地区：12月12日（月）午後7時～8時30分 参加者数40名
（うち、15人町職員）

【マイナンバーカードについて】

《質疑応答》

- Q. 薬師ザクラ脇の変形十字路について、安全性の観点からも改良をお願いしたい。併せて薬師ザクラの駐車場の整備もお願いしたい。
- A. （建設課長）現場の確認をさせていただいた。非常に危険な箇所であると認識している。なお、町内のさまざまな地区から道路改良等の要望をいただいております。調整をしながら対応させていただきたい。
- A. （教育次長）薬師ザクラの駐車場スペースについて、土地自体は町の所有となっている。車が集まるのは桜の時期だと認識している。ただ、さくらまつりの際は、駐車スペースにロープを張り駐車禁止にし、釜の越桜の駐車場を利用してもらう等の対応をしている。現時点では、現状維持の形で大丈夫でないかと思う。
- Q. 令和4年8月も大変な豪雨災害であり消防団や自主防災組織でもさまざま対応した。その中で、本部となかなか連絡が取れなかった。対策本部をはじめとする指示系統の確立を改めてお願いしたい。
- A. （総務課長）災害の規模にもよるが、大きな災害時には町長を対策本部長として、関係各課が集まり、随時本部会議等を実施するなど情報共有を図っている。しかし、どうしても現場確認などで、手薄になることもある。これまでの災害を教訓として、情報を一元化して対応するように、指示を徹底しているところである。今後とも自主防災組織の皆さまと連携して対応していきたいと思う。
- Q. コロナ禍における介護施設の利用について、明確な基準等はあるのか。デイサービスやショートステイで違いがあるようだが、特に説明もなかった。利用に関して行政指導等はあるのか。
- A. （健康福祉課長）コロナ感染に伴う福祉施設利用について、町から何らかの指導や管理をすることは現在のところない。各事業所や事業主の判断に任せ、事業の運営をお願いしている。ただ、保健所が感染状況に合わせて、指示や判断をすることはある。

- Q. 災害時の避難所開設について、避難所のレイアウトや物資等、なにもないような状態。県からは、行政機関と避難所施設との間で協議して準備していく旨、指導があるようだ。しっかりとした話し合いの中で避難所開設に向け対応をお願いしたい。
- A. (総務課長) 蚕桑地区はコミセンと蚕桑小学校が避難所に指定されている。町では、令和2年に避難所開設マニュアルを作成し、各地区の自主防災会に避難所開設の基本方針を策定するようにお願いしてきた経過がある。しかしながら、地区によっては避難所開設の方針について確立していないような状況があるようなので、町と自主防災会とで内容を詰めて今後スムーズな避難所開設を行えるように対応したいと思う
- Q. 地区担当職員の方が、異動された際に誰が担当なのか分からない部分がある。情報の共有を含め、適切な運営を求めたい。
- A. (総務課長) 人事異動もあり、毎年同じ担当者とはならないのが事実。他地区では新年度に切り替わるタイミングで地区担当職員と自主防災会の方々、地区の役員の方々が集まって確認しているような状況もあるのでご協力をお願いしたい。
- Q. 地域づくりの中で人づくりが重要になってくると思う、コミセンでも主体となってさまざまな取り組みを行っているが、今の体制ではマンパワー不足の部分もあるのが事実。町の支援を含めた、更なる協力をお願いしたい。
- A. (町長) これまでも職員の待遇改善等々のお話をさまざまいただいていた。また地域の人材も固定化している状況もある。職員の採用を含めたコミセンの運営に関して、どういう形が理想なのか、地域の実情も考えたうえで、もう一度話し合いを重ねて、一番いい形を追い求めて今後のまちづくりを行っていききたいと思う。
- Q. 農業の水田活用直接支払いについて、5年に1度水田に戻さなければ交付対象外とする国の方針がとられたが、対応が極めて大変な状況。白鷹町の産業の基盤は農業だが、農業をするにも大変な時代になってきた。町の支援を今後もお願いしたい、更には今後の農業の方向性を見出していただけようご指導願いたい。
- A. (農林課長) 現段階ではっきりとした方向性はお示しできないのが現状。水田活用直接支払いの制度も大変な課題であるとも認識している。町には水田農業部会という組織があるので、そちらの組織を中心にしながら今後は計画を練って、戦略的に農業を行えるような方向性を見出していきたいと考えている。
- (町長) この制度については、町としても到底納得していない。町としても国に対して声を挙げていきたい、農業者の声を届けていきたいと考えている。皆さまのご協力をお願いしたい。

- Q. 町でもゼロカーボン宣言をしたわけだが、蚕桑地区でもゼロカーボンにむけコミセン事業の中でも取り組んでいる。ゼロカーボンに向け町としても地域の皆さんと一緒に頑張って取り組んでいくものだと思うが、何か事例や支援のようなものがあるのかお聞きしたい。
- A. (農林課長) 二酸化炭素を吸収する唯一が森林である。森林の若返りを行うためにも、森林整備に力を入れて事業を展開している。
- A. (町民課長) 再生可能エネルギー設備の設置補助などを行っている。また、環境基本計画の見直しなども行っている。
- Q. 先般の環境フェアの講演会は、素晴らしい講話だった。しかしながら参加者が少なく、これが今の町の現状だと思う。もっと、環境に対する取り組みを広報していかなければならないと思う。
- A. (町長) 貴重なご意見をいただいた。地域の資源も使わせていただきながら、しっかりとPRしていきたいと思う。